

第6回 金沢の景観を考える市民会議

日 時：平成 31 年 2 月 23 日（土）

会 場：金沢歌劇座 2 階大集会室



金 沢 市

目 次

あいさつ	1
金沢市長	
山 野 之 義	
講演「市民主体の景観まちづくり - 参加と協働の現場から -」	2
講 師	
坪 正 浩 (石川地域づくりコーディネーター)	
金沢市景観サポーター・景観みまもりたい活動報告	12
報 告 者	
竹 下 知 子	
末 富 しげ子	
西 山 純 夫	
馬 場 要	
石 川 育	
須 崎 秀 人	
トークセッション「新しい時代へ 私たちができること」	27
コーディネーター	
宮 下 智 裕 (金沢工業大学准教授)	
パネリスト	
川 端 すぎな (金沢市景観みまもりたい)	
高 木 信 吉 (金沢市景観みまもりたい)	
中 田 康 子 (金沢市景観みまもりたい)	
アンケート調査結果	35

第6回 金沢の景観を考える市民会議

～これからの金沢の景観を考える～

日時 平成31年2月23日（土）13:00～15:00

場所 金沢歌劇座 2階大集会室

あいさつ

金沢市長 山野 之義

皆さん、こんにちは。本日は、たくさんの方々にお集まりいただきました。心から感謝を申し上げます。また、ご講演をいただきます石川地域づくりコーディネーターの坪さん、最後、パネルディスカッションで、コーディネーターをお務めいただきます宮下先生には、ご多用の中、本当に心から感謝を申し上げます。

本市は昭和43年、全国に先駆けて、景観条例を制定いたしました。行政目線だけではなく、

多くの市民の皆さん提案によるものということが大きな特徴です。昨年、制定から50年の一つの節目を迎えるました。金沢の景観を考える市民会議は、平成21年、現在の景観条例を制定したことを機に、市民の皆さんとともに新たな景観まちづくりの第一歩を踏み出すために始まった取り組みであり、隔年でこの会を開催し、今年で6回目となります。これまででも景観にご関心のある皆さま方が、いわゆる行政目線だけではなく、一般的な市民目線を持って本市の景観を調査、研究され、われわれ行政も景観の施策に反映をさせていただいているところでもあります。

今回のテーマは、これからの金沢の景観を考えるというテーマであり、2年間、このテーマを念頭に置いて活動に取り組んでいただきました。昨日、新年度予算の内示発表をいたしました。そこにも書かせていただいておりますけれども、金沢の景観の魅力をさらに高めることを目指し、金沢の美しい眺望、景観の保全と創出を図るために、市独自の新たな景観関連条例として、眺望景観形成条例を提案させていただきたいと思っています。議会の皆さんに丁寧に説明し、ご理解いただき、無事制定させていただければと考えています。多くの皆さんのお力をお借りすることになると思います。

金沢のまちづくりの特色というのは、行政が鉛筆で線を引いて何もかも決めるというのではなく、多くの市民の皆さんが問題意識を持って提案を頂き、時には行動をしながらまちをつくっていっていることだと思います。その地域、地域でさまざまなまちづくりに取り組んでいただいているところでありますが、この景観まちづくりも、まさにその代表的な例だと思っています。今日は最後まで出席することはできませんけれども、可能な限り皆さん方と一緒に学ばせていただければと思います。本日は本当にありがとうございました。



講演「市民主体の景観まちづくり - 参加と協働の現場から -」

坪 正浩 氏（石川地域づくりコーディネーター）

(司会) 講演に先立ちまして、講師の坪様をご紹介いたします。

坪様は、1960年、石川県のお生まれで、金沢大学大学院博士後期課程を修了され、株式会社日本海コンサルタントにお勤めのかたわら、石川地域づくりコーディネーターのほか、都市環境デザイン会議理事や西村幸夫町並み塾の事務局長など、まちづくりに関するさまざまな活動に携わっておられます。

本日は多岐にわたる活動のご経験から、「市民主体の景観まちづくりー参加と協働の現場からー」をテーマにお話を頂きます。それでは、坪様、よろしくお願ひいたします。

皆さん、こんにちは。坪でございます。どうかよろしくお願ひいたします。このような機会を与えていただきまして、金沢市や関係者の皆さんに感謝を申し上げます。今日はこれから、私がいろいろな地域で参画しているまちづくりの事例についてお話しできればと思っています。

皆さん、重々分かっていらっしゃると思いますが、景観とはどういうことか、まちづくりとはどういうことか、住民の参加、協働についてお話しします。私が思うところの市民主体のまちづくりとはこういうことではないかということをお話しして、それから、私が関わってきた事例を一つ、今日はご紹介し、最後にまとめたいと思っています。



先ほど、ご紹介いただきましたので簡単に oe ますが、いろいろなところで、社会的活動を多くさせていただいている。都市環境デザイン会議の理事とか、今回のこのコーディネーターとか、それから富山市や上越市などで、いろいろなところのアドバイザーなどもさせていただいております。後でも出てきますけれども、今は、神戸芸術工科大学に行かれました西村幸夫先生と町並み塾をずっとやっています。

(以下、スライド併用 #印)

#

まず、景観とはどういうことかをお話しします。もちろん景色とか眺めとか風景とか、こういったことが景観なのですが、景観とは、その眺めるという行為であるとともに、自分たちが住んでいる住まいとか生活などもほかから眺められるというものが景観だと私は思っています。風景とか景色、眺めそのものの景、それからそれらを眺める人々の価値観、この景と観から成り立つものが景観であると思うのです。いわゆる、そこに住んでいる人たちの考え方とか価値観を反映したものが、ここでいう景観だと私は思っています。

こちらに書きましたけれども、風景そのもの、眺めそのものが景で、それらを眺める人々の価値観が、この景と観が合わさって、そこに住む人々、住んでいる人々の価値観を反映したものが景観であると考えているところであります。

#

続いて、まちづくりについてです。これもいろいろな定義があるのですけれども、私自身の定義は、まちづくりというのは、その地域の資源を基本として、多様な主体、市民だとかいろいろな方々が、連携、協力して、まちの活力とか魅力を高め、生活の質を向上させるための持続的な活動です。一過性のイベントではなく、持続的にあるものがまちづくりだと私は思っています。まちづくりという言葉自身が、高度成長期の公害への反対運動から出たと言われております。今では、ひらがなの「まちづくり」がいろいろなところで使われています。例えば、ビルを建てたり、それからイベントをやったり、生業づくりをしたり、人づくりもまちづくりと言われているところです。このようにまちづくりというのは多様なものだと考えております。

#

次に参加についてです。例えば目標設定をしたり、計画を作ったり、それから事業を実行するときにいろいろなところで市民が参画される、そういう状態や仕組みのことを、いわゆる住民参加といっています。しかし、社会学者のシェリー・アーンスタインは、住民参加のはしごモデルがある、住民参加にはいろいろな段階があると言っています。まず、参加とは言えない段階もあります。それは、操作というところで、例えば、市民が委員としていろいろなところに参画するのですけれども、参加の事実だけをつくる、それからセラピーということで不満だけをなだめているなどです。それからアリバイとしての住民参加という段階があって、お知らせです。情報は市民に伝えるのだけれども、市民の意見はあまり反映されない。それから、意見聴取ということで、アンケート等で聞くのだけれども、それをどう反映するかは不明である。それから、懐柔といって、例えば、意見が10出たら三つは反映されるけれども、あと七つは違うところにいってしまう。それから、市民の力が生かされている段階があって、市民と行政等が決定権を共有するパートナーシップ。行政が市民にその権限を委譲する。最後は市民主導で、市民が自己責任をもってコントロールしていく。こういう段階があるということを彼女は言っています。金沢市もだいぶこの段階になっているだろうと思いますけれども、市民の力が生かされている段階でありたいなと思うところです。



#

住民と市民の話をします。住民というのは、住民投票とか住民票とかがあるように、そこに住んでいる人です。これは住民です。しかしながら、市民というのは、もちろん私も

金沢市民なので、市に住んでいる人も市民なのですけれども、例えば市民運動とか、市民権という言葉に代表されるように、その公共性の形成に自立的に自発的に参加する人々も市民だということです。今日、私が言う市民主体の市民は、まさにその意識を持ってまちづくりや景観づくりに参画することだと思います。

#

続いて協働です。協働という言葉は阪神淡路大震災から広がったといわれていますが、多様な主体が共通の目標に向かって力を合わせて活動するです。行政だけでは解決できなかったり、または住民だけで解決できなかったりするときに、お互いに力を合わせてやることによって補完性が働く、これが協働だといわれています。

その協働の主体は、ここでいう市民はもちろん、最近は企業市民という言葉も出ていますので、NPOとか企業も市民です。それから、最後に行政も行政市民というとすると、いろいろな市民がいるわけです。こういう市民の方々が力を合わせて問題解決をしていくのが協働だと思っています。

#

続いて、公、公共、私という話をしてみたいと思います。日本では明治以降、公と私の二元論で作り上げられてきました。公共のことは公が行う、私は何もしなくていい、公に従っていればよいという誤解が生じてきました。公共には、もちろん官が行うことも含まれるのですが、私、市民がみんなのために行うことも公共です。よって、公、公共、私、この三元論でこれからは捉え直すことが必要だと私は思っています。このみんなのためにということが、まさにまちづくりだと私は思っています。

これはお互いの領域を示したものですが、市民の領域と行政の領域、もちろんプライベートはプライベートで守られるのですけれども、この関わりの度合いによっていろいろな協働が発生する、ここがみんなのためになるところだという定義です。今まででは、なんでもかんでも行政に意見を言えばいいということであったわけですが、これからは、お互いが関係性をもって、ネットワークして協働で働くと、これが大事だと私は思っています。

#

市民主体の景観まちづくりは、もちろん景観を良くすること、地域の環境を改善することなのですが、優れた景観は、その地域のイメージを向上させ、そこに住み続けたいということで愛着も育むものだと思います。また、まちの魅力が高まることで、その地域社会全体が活性化されますし、それにつながるためには、住民の不断の努力が必要なことは言うまでもありません。これからは、一部の住民の方々とか、行政主体のまちづくりから、市民主体の景観まちづくりへ転換していくことが大事だと私は思っています。

#

例を一つ挙げます。おはらい町というのはご存じですか。伊勢神宮の内宮のすぐそばにあるところですけれども、この近くに駐車場ができたので、以前はお伊勢さんにお参りするときは駐車場に止めて、神宮に参って帰るというのが普通のコースだったそうです。こ

のおはらい町には、平成4年に35万人来たと書いてありますけれども、昭和から平成に変わるときぐらいは20万人の人しかいなかつたそうです。ところが、赤福さんが身銭を切って市に寄付して、それを資金として市が一生懸命頑張られて、住民と一緒に景観づくりをやつしたことによって、今では平成27年の観光統計ですけれども、524万人も来ているそうです。約15倍の人が訪れている町になったそうです。ここは、赤福という一企業市民がこのままではいけないということで頑張られた結果がこういう形につながった例であります。

#

ではこれから、私が二十数年関わっている石川県加賀市の大聖寺のお話をしたいと思います。石川県の端っこで、人口は6.7万人で、だんだん減ってきてています。大聖寺という城下町があつて、山中、山代、片山津という温泉街があるところで有名です。大聖寺地区は大聖寺藩10万石の城下町ということで、加賀藩の支藩であったわけです。重要文化財の長流亭や、これからお話しする山の下寺院群、町家等、多様な歴史的な建築物が多く見られるところです。

#

まちづくりの経緯を簡単にご説明しますと、平成6年ぐらいから、このままではいけないということで、大聖寺まちなみ景観整備委員会というのが住民だけで発足します。いろいろな活動をされて、平成8年に大聖寺地区に歴みち事業という都市計画事業をやるわけですが、その事業と併せてまちなみ整備を行います。それから、NPOをつくったり、全国町並みゼミを誘致したり、川下りの会をやったり、最近では能楽堂まで住民がつくったというところです。

このような形で旧北国街道の道筋もだんだんなくなつていって、このままでは大聖寺は駄目になるのではないかと、歴史的な資源が失われていくことに住民の皆さんのが危機感を持ち、何とかしなければいけないとと思うわけです。それで、一つ、イベントを企画しました。かつて参勤交代で江戸までお殿様が行ったわけですけれども、そのルートに九谷の絵皿を1週間に一つずつ自治体をまたぐような形で送りましょうと、リレーをしてもらったわけです。

加賀の隣が小松、こちらは芦原ということで、1週間に一つずつリレーをしていただいて、最終的には、上屋敷が東京大学の医学部のところにありましたので、そこへ行きます。医学部に行ってもらうと分かるのですが、有名な方々の銅像がいっぱいあるのですけれども、この九谷の絵皿が置いてあります。これは全部住民が主体的にやつたものです。もちろん行政と協働してやつたものです。

そういうしているうちに、この大聖寺地区に「身近なまちづくり支援街路事業（歴みち事業）」を入れて何かできないかということになってくるわけであります。歴史的な資源を保全しながらまちづくりに活用しよう、それから、歴史的環境の保全と居住環境の改善を何とか両立させようということでやるわけです。ここで委員会をつくって、西村先生が委員長になるわけです。地元でも協議会をつくってこの事業を支援しました。また、これに併せて市では景観条例を作りました。山の下寺院群地区と橋立地区を対象としました。橋

立の方が先に伝建地区になっています。助成制度を作つて、いろいろな議論をするわけです。

#

大聖寺は、あまり開発が進んでいない。都市計画道路があまり造られていませんので、ほとんど昔の絵図でまち歩きができるようなところです。これは昔の地図と現在の図面を重ね合わせたものですが、ほとんど変わっていません。長流亭とか武家屋敷とか町家とか、このようなところが大聖寺であります。

#

かつての藩邸、山の下寺院群、まちなか、こういったところにいろいろなプランニングを立てるわけであります。特にこの山の下寺院群に一番力を入れました。山の下寺院群は、一つの神社と七つのお寺があるところです。城下町の護衛上、多分つくられたのだろうと思いますが、まちの中の静かで落ち着いたところにあります。

#

私はこの地域にコンサルタントとして入りました。最初は住民の皆さんとお寺の前だけですから、こういった範囲を計画範囲としてやりましょうということで話をします。地元でこのように話をしていると、地元の方々が、「私たちはお寺のところに住んでいないけれども、お寺の周りに住んでいる。お寺に行く、誘うところは私たちのところだ」ということで、この熊坂川から上を範囲に入れてくれということを言い出すのです。それから、「いやいや、そうではない。背景も入るでしょう」「それから、こちらの方も含むべきではないか」ということで、この背景の丘陵のところも含めて、ここに新興の住宅団地があつたのですが、ここまで入れてここのまちづくりを一緒になって考えましょうと、住民が住民発意で景観整備をする区域を広げてくれ、ルールを作る区域を広げてくれと言うわけです。

私も、いろいろな地区のお手伝いをいっぱいしておりますが、範囲から外してくれというのはいつも言われるのですけれども、範囲に含めてくれ、一緒になって考えさせてくれと言われたのは、ここが初めてではないかなと思いました。

#

それから住民が一生懸命まちなみ調査をしました。専門家がやってもちろんいいのですけれども、住民がやることに非常に意味があって、画板を持って、住宅明細地図で、一生懸命町の様子を彼らは調べるわけです。

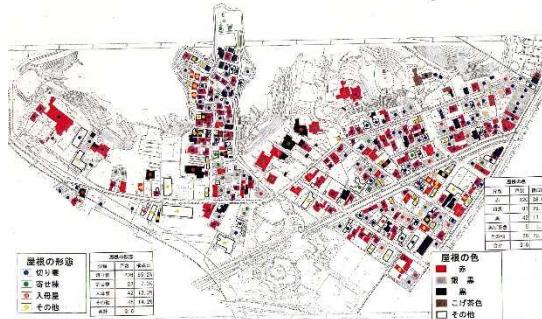
彼らが調べたものがこれです。この赤く見えるのは赤瓦なのです。江沼の赤瓦といって、赤瓦がたくさんあるところで、4割以上が赤瓦の建物だということが分かりました。この図は住民が作ったのです。それから外壁が茶



色いものがどれだけあるか、色も調べたのですけれども、これも住民がやったわけです。

#

皆さんと一緒に、どのような景観づくりをしましょうかということで、絵を描きましょうとやるわけですが、最初はこういうところを見て、何が障害かということで、電柱が邪魔だとか、ここはこうしまようと、このシャッターはいかがなものかとか、皆さんで議論するのです。最終的にこういうパースを描いて、これで大体いいのではないか、こういうイメージでやっていこうということとなるわけです。



一方で、ここは寺院群なので参道のイメージがありまして、住民の皆さんが高い石畳にしてくれということで、最初にこういう絵を描いたわけです。これを見て、これがいいと、このような通りにしてほしいとなるのですが、委員長の西村先生が途中から、本当に石畳でいいかなと、石畳がこの地区の景観になるのかということをおっしゃるのです。住民は、この石畳で夢を見ていますから、最初はすごく反対をしたのですが、石畳だとどうしても後のメンテナンスが問題になってくるし、例えハイヒールが引っかかったりするのではないかとか、いろいろな話にだんだんなっていって、最終的には石畳ではない案になります。道路の端などには、滝ヶ原石という石は使ったのですが、脱色アスファルトで玉石が見えるような形の景観整備になったわけです。

#

約束ごとを自分たちで検討しています。ここにいるのは若いときの私ですけれども、自分たちでルールづくりを全部検討しました。作ったルールに基づいて建築確認申請が出されているかどうかを自分たちでチェックをするわけです。もちろん建築確認申請は行政でやるわけですが、行政の方は、「地元にこういう組織がありますから、まず地元で説明してください。地元の方がOKであれば私たちは確認申請の手続きをとります」ということをされて、地元が建物の審査をしました。

#

景観整備したお寺の例ですが、一つは、全昌寺といって芭蕉も泊まったといわれているところです。ここは庫裏（くり）のところが黒瓦でしたが、住職さんが赤瓦に替えてくれました。それから、久法寺は山門を赤瓦で造っていただきました。九谷の作家さんのところは外壁がトタンでブロック塀だったのですが、生垣と赤瓦と白漆喰、下見板張りの歴史的な建物



にしていただきました。通りは、ほとんど道は広げていないのですけれどもこうなりました。これは1週間ぐらい前に天気が良かったので私が撮ってきたのですが、思ったとおりに出来上がっていい形で落ち着いたまちなみになったなと思っているところです。そのほかに、蘇梁館という古民家を移築しました。

#

ここでの参加、協働のポイントですが、地元でつくったまちづくり協議会があつて、ここでいろいろな調査をしました。官と民で役割分担と協働を議論したところです。一番奮っているのは、住民によるまちなみ調査したこと、それからルールづくりを約束ごととここでは呼んだのですが、自分たちで作ったこと、そして、その約束ごとを住民が住民に説明し、説得したのです。これがすごいことだと思います。普通であれば、行政が住民の皆さんに説明会という形で、お話しされるのだろうと思いませんけれども、ここは自分たちでルールを作り、自分たちが自分の周りの住民に説得したのです。それで皆さんで判子を押して、合意を頂いて、ルールづくりも固まりました。それから策定後も継続的に活動する必要があるということで審査をしたり、そういう活動団体をつくるような形になっていくわけです。

#

エピソードがあります。最初はすごく良かったのです。区域を広げてくれとか、そういったあたりは良かったのですが、だんだんルールづくりになると、各論反対になってしまふわけです。道路のデザインは誰が決めるのだと、石畳のことでもすごくもめました。結果的には議論をしていく中で收れんしていくわけですけれども、こういうときもありました。

それから、さんざんもめたときに、行政の当時の課長さんが、最後に啖呵を切るわけです。「道は私たち行政が責任を持って造りますが、まちなみは地元の皆さんがつくるものですよ。皆さんのものでしょう、まちなみは」と、これで急にわれに返った住民のさんは、ではということで合意形成が進んでいくわけです。

私自身にもこういうことがありました。「コンサルタントは遅れて来い」と、私は三十数年こういう仕事をしているのですけれども、こう言われたのはここが初めてです。先ほど、まちなみ調査がありましたけれども、その前の日に準備が出来上がっていて、このように調査しましようと彼らと話をしていたわけです。しかし、その前の日の夕方に会社に電話がかかってきまして、「坪さん、悪いけど、明日の調査、あなた遅れてきてよ」「なんで、皆さんと一緒に私も調査しますよ」と言うと、「このまちづくりは自分たちのまちのまちづくりだから、あなたは遅れて来てほしい。最初からあなたがいるとみんなあなたに頼ってしまう。これからは自分たちで汗をかいてやっていかなければいけないので、ぜひ、この調査は私たちが主体でやらせてくれ」と言われて、私は遅れて行くわけです。

#

それ以降、子どもたちと一緒に景観シンポジウムをやったり、昔体験をしたり、ボランティアガイドの養成、通り名称の設置をしたり、それから、時鐘堂は昭和9年の大火で燃

えてなくなつたのですが、どうしても再建したくて NPO をつくるわけです。この NPO をつくるときも、継続的な組織があればいいですねと私は申し上げていたので、あるときに地元の方々が私の会社にいらっしゃって、「NPO をつくることになりました。坪さんが言われるよう、私たちも継続的な組織が要ると思ったから NPO をつくります」「それは良かったですね。ぜひ頑張ってください」と私は言ったのですけれども、「ついては坪さんに理事になってもらいたい」「え、私ですか」と。これまでの経緯もありましたので「では、やりましょう。皆さんと一緒にこの活動を継続しましょう」ということで、今、私は、末席ではありますが、ここの NPO の理事を務めています。

#

全国町並みゼミという大きな大会がありまして、このときには永六輔さんを呼んで話していただきました。永さんは『職人』という本を出していたので、永さんが一番いいなと思ってお願いしました。

#

先ほどから出ている西村先生ですが、平成 16 年から西村先生と町並み塾をやっています。町並み塾は年に 4 回行っています。北陸 3 県で大体やるのですが、今年も、金沢でもやりますので、ぜひこの町並み塾に皆さんもご参加いただけるといいかなと思っています。本当にいろいろな知見を学べますし、皆さんとともにまちなみを良くするような活動を展開できると思っています。

#

五徳庵です。これは普通の住宅を市民の方が、行政ではなく、あなたたちに受け取ってほしいということで寄付を頂きました。これも登録有形文化財にしまして、今は人に貸していますが、お住まいとして使っていただいている。

#

それから川流です。川下り船を運行しています。



#

船着き場で地元の近郊のものを販売しています。

#

ちょうど空き地になった所に町並み景観広場という広場を造りました。碑をつくり西村先生に「町並みはみんなのもの、まちの未来に託すもの」という言葉を書いていただきました。

#

それから、子どもたちと、ふるさと風景をまもり隊。梅干しみつけたり、干し柿を作ったり、このようなことも一緒にやりました。

#

北陸新幹線が金沢開業になる前に、石川県はステップ 21 という活動をしました。5、6年、多分、やっていたと思いますが、そのときに私たちは、体育会系の合宿は世の中いっぱいあるのですけれども、文化合宿というものをやりまして、いろいろな大学の学生にきてもらひ、こういう活動をしました。

#

もうステップ 21 は終わっているのですが、今、ステップ 21 繼続自主事業と銘打って、赤瓦の里セミナーをやっていまして、赤瓦は世界各国にいっぱいあるので、それを調べて、みんなで共有しましょうということをやっています。

#

ドウダンツツジを大聖寺川の河畔に植えています。このときも携帯に電話がかかってきて、「坪さん、大聖寺川の河畔にドウダンツツジを植えたらきれいだと思うか」「それはきれいだと思いますよ。白い可憐な花が咲くし、秋の紅葉もいいしね」と私が言ったら、「そう思うだろ」「ああ、そうですね」「では、坪さん 1 万円です」と言われて、みんなで寄付して、これを植えました。

#

子ども能楽堂をつくりました。これも全部皆さんで寄付してつくったのです。子どもたちも能を学ぶのだけれども、それを発表する場がなかなかないので、ここで発表できるようにとつくったのです。

#

ここで大聖寺の活動のまとめをしますが、先ほど言いましたように、歴史的な資産が失われることの危機感からこういう組織ができました。住民はまちなみ調査を自分たちでやり、約束ごとを自分たちで作り、自分たちが住民に説明して合意をとりました。同意書を発行し、こういう活動をしました。ここでは、やはり自分たちが楽しむことです。住民の皆さんのが楽しむことからスタートしています。女性と子どもたちと一緒に活動することをモットーとしています。行政の方々も市民として一緒に活動をサポートしています。

ここでいつも言っているのは、知恵を出しましょう。汗もかきましょう。最後はお金も出しましょう。自分たちのまちが良くなるために自分たちでお金を出すのは当たり前だというスタンスで私たちはやっています。地域の住民にしかできない地域の活性化は住民自身の心の活性化、地域とともに楽しく活動したいということで、今でもやっています。

#

NPO をつくりましたけれども、最初は、結構皆さんから四面楚歌で、いろいろなことを言われ、やゆされました。しかし、もう二十数年やってきて、今ではいろいろなネットワークが出来上がって、皆さんとともに楽しく活動しています。

#

最後にまとめをお話します。今日は事例が少なかったのですけれども、私がいろいろなところ、一緒になってやっているところは、大体参加する人たちが楽しんでいます。楽しみながら活動することが第一点。

二つ目は、景観のことで申しますと、風景は私たちのもの、自分たちのもの、みんなのもの、そういう意識を高めあうことが大事です。それから、三つ目には、多様な景観資源がありますので、そういうものをしっかりと守り、活かすことが大事だと思っています。

四つ目には、景観まちづくりをやっていくのですけれども、途中、ぶれないでやっていくためには、その目的というものを一緒に活動する参加者の皆さんと共有することが大事だと思います。五つ目には、活動は自分のためではなく、みんなのためということを基本にすべきと考えています。

六つ目には、継続は力なりで、先ほどの NPO をずっとやって来ていますけれども、小さな成功体験を積み重ねながら継続していくことが大事だと思っています。皆さんの活動も、ぜひ、継続していただければと思うところであります。

最後になりますが、自分たちのまちは自分たちで守る、育てる。金沢も、まさにそうありたいと思います。そして、景観まちづくりは、今の人たちのためだけではなく、孫子のために、今日も 100 年後ということをテーマに書かれていますが、やはり孫子のためにこの景観まちづくりがあるのではないかと思います。ご清聴どうもありがとうございました。

金沢市景観サポーター・景観みまもりたい活動報告

「景観サポーター・景観みまもりたいについて」（竹下）

景観サポーターと景観みまもりたいの活動報告をします。私は、景観みまもりたいの竹下と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

（以下、スライド併用 #印）

#

まず、簡単に概要を説明いたします。私たち景観サポーターと景観みまもりたいとは、金沢市長から任命され、金沢の景観に関する取材や調査を行い、良好な景観形成のために活動する市民ボランティアです。



#

景観サポーターの取り組みについては、金沢市景観総合計画に示されており、活動の概要は主に市内の景観チェック、金沢特有の景観資源の調査、景観に関する計画策定への参画、市民や事業者に対する景観誘導の4つです。

#

この4つについて、景観サポーターと景観サポーターとして活動した者のOB組織である景観みまもりたいとで協力して活動に取り組んでいます。現在、第5期の景観サポーターが活動しており、9名が登録しています。また、景観みまもりたいは21名が活動をしています。任期は平成29年4月から平成31年3月までの2年間です。

#

こちらは、毎月の連絡会議の様子です。金沢の景観についての基礎的な知識や情報を共有し、メンバーの共通認識を高めるため、定期的に話し合いをしています。活動されている皆さんには、常に景観に対しての問題意識が高く、金沢に深い愛情がある方々ばかりですので、共通認識も得られやすく、スムーズに活動に取り組むことができました。

#

また、勉強会では大学の先生による講義を受けることもあり、金沢らしい景観のあり方などについて議論を深めました。

#

調査活動としては、グループや個人で建築物や広告物のほか、犀川や浅野川の川筋景観や交差点の景観、金沢マラソンコースの沿道景観など、金沢の景観を構成するさまざまな要素について取材、調査をしました。普段何となく見ていたまちなみも、ある要素に着目

することで新たな魅力を発見することができます。なお、調査結果をまとめたそれぞれの報告書については会場後方に置いてありますので、ご覧いただければ幸いです。

#

その他、金沢の景観について気付いたことをテーマとし、さまざまなサークルや団体などで出前講座を行ったり、地元の協議会や小学校を訪問し、地域の景観調査にも取り組んでいます。



#

さらに、新聞の取材やテレビ出演なども行い、たくさんの方々に金沢の景観の魅力を伝える活動をしています。以上、簡単ですが、景観センター、景観みまもりたいの活動概要について紹介しました。

#

これから、いくつかの調査活動の中から、5つのテーマについて各担当より調査結果を報告します。よろしくお願ひいたします。

「交差点の景観」(末富)

#

私は、景観みまもりたいの末富と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。交差点周辺の景観をみまもりたいの目で調査いたしました。

#

調査の目的は、観光客の目線で交差点周辺の景観を調査し、各交差点において良いと思われる点、また改善が必要と思われる点について提言するものです。

#

調査方法は、観光バスルートにおいて16カ所を調査いたしましたが、特に観光客が多いと思われる兼六園下、広坂、寺町5丁目、香林坊、武蔵、橋場の六つの交差点についてご報告いたします。

#

まずは兼六園下交差点です。5本の通りが交差し、いずれの通りも無電柱化の整備がなされており、広々とした交差点です。

#

兼六大通りは街路樹のアメリカ楓が印象的です。

#

お堀通りからの眺めです。以前は景観を阻害するたくさんの看板が目立っておりました。

#

現在は、関係者のご協力ですっきりとしてきれいになりました。

#

兼六坂の眺めです。この道路標識は、特別にこの高さで、周辺の景観に配慮されています。大変好ましいと感じました。



#

石川橋の景観です。平成7年に改修されました。当初は違和感を感じましたが、現在は橋の色が周囲となじんで良い景観になっていると思います。

#

道路の白線メンテについての提言です。

#

これは横断歩道の白線が汚れたときのイメージの景観です。

#

これは白線がきれいなときの景観です。白線の汚れ具合が景観に及ぼしているのではと感じます。特に観光客の多いところでは、道路の白線にも気配りが大切だと感じました。

#

次は広坂交差点です。

#

これは香林坊方面の景観です。

#

これは百間堀方面的景観です。

#

そして、これは本多の森方面的景観です。いずれの景観も良いと思います。ここは市内の中心部にあって樹木に囲まれていることが特徴の交差点です。今までどおり、樹木の十分な手入れをお願いいたします。

#

次は寺町5丁目交差点です。この交差点の特徴は三つあります。

#

一つは、四つ角のうち、三つの角がお寺に囲まれており、寺院群にふさわしい交差点です。

#

二つ目は高台にあるということです。

#

そして三つ目は眺望景観が大変良いことです。金沢市は恵まれた自然や起伏に富んだ地形を背景としており、優れた景観を眺めることができます。

#

冬景色の犀川沿いの犀星のみちが心を癒やしてくれます。

#

提案です。坂道を登ってくる観光客がひと休みできるようにポケットパークの導入をお願いいたします。

#

次は香林坊交差点です。

#

こここの交差点は、要所にモニュメントが配置され、金沢を代表する交差点としての景観を醸し出しています。

#

提言ですが、地下駐車場入口の側面の汚れが目立ちます。モニュメントを配置してまで景観に配慮した香林坊交差点です。汚れが目立たないように気配りをお願いいたします。

#

次は武蔵交差点です。

#

ここには昭和の名建築家、村野藤吾氏設計の北國銀行武蔵ヶ辻支店の建物があります。

#

ライトアップもされ、三つのアーチが並ぶ正面の外観が美しいです。

#

冬には金箔の雪吊りが設置され、金沢らしい風景を楽しむことができます。

#

広くて大きな交差点で、地下道の出入り口もありますが、すっきりとして景観は大変良いと思います。

#

最後は橋場交差点です。ひがし茶屋街、主計町茶屋街、それに兼六園方面へ行き来する観光客で賑わっています。

#

ここは歴史的建物と新しいビルとがお互いに融合して、落ち着いたまちなみで良い景観になっています。そのまちなみの中にある共同の駐車場のフェンスを、緑化を兼ねたけやき、あるいは木材を使った塀にしていただければ、なお一層沿道景観が良くなるのではないかと思いました。

#

以上 6 カ所の交差点について述べてまいりましたが、各交差点に共通することは無電柱化の重要性です。その重要性を安江町北交差点を例にお話しします。

#

無電柱化できれいになった横安江町商店街と

#

別院通りです。

#

これはまだ無電柱化されていない安江町北交差点です。

#

横安江町商店にとっては大切な出入り口の景色です。クモの巣状態の電線と電柱がなければ、町家風建物と松の木が見事なお寺とが織りなす、金沢ならではの景観が期待できるのではないかと思います。無電柱化の重要性を改めて痛感いたしました。

#

六つの交差点の調査からの提言、提案は次のとおりです。無電柱化の推進、道路の白線メンテのお願い、交差点へのポケットパークの導入、樹木の手入れと清掃です。

以上、観光客の目線で見ました交差点周辺の景観についてご報告いたしました。ありがとうございました。

「金沢マラソン 気になった沿道景観」（西山）

#

景観サポーターの西山純夫と申します。よろしくお願ひいたします。

#

金沢マラソン、気になった沿道景観についてご報告いたします。

#

金沢マラソンは、既に4回、開催されております。スタートはしいのき迎賓館前、ゴールは西部緑地公園陸上競技場です。

#

昨年は金沢駅前のコースが復活し話題になりました。

#

今や鼓門は石川門に匹敵する金沢のランドマークとなっております。ランナーはこの門を見て金沢を走っていると実感するようです。

#

私たちのグループは一大イベントとなった金沢マラソンのコースを見て回り、あるいは実際に金沢マラソンに参加してみて、メンバーそれぞれの視点で気になった景観について調べました。ご覧のようなポイントに着目しました。今日は、その中から二つ、格子デザインとパブリックアートについて発表します。

#

まずは、現代建築の格子デザインです。

#

駅西の新都心ゾーンの建物を取り上げます。

#

最初は金沢駅西口ビルです。縦のラインを強調したデザインです。

#

石川の伝統工芸、漆をイメージしたタイル貼りの建物です。兼六園口とは異なった手法で伝統と新しさが調和した、新都心の玄関らしい建物です。

#

こちらは、昨年、移転、新築したNHK金沢放送局です。外観のデザインは現代的なのですけれども、格子の色から金沢町家をイメージさせます。これから駅西ゾーンのシンボ

ルとなり得る建物です。

#

三つ目は住友林業北陸支社です。マラソンコースの県庁からは少し先になりますが、目立つ建物です。周りの樹木とダークブラウン色の格子の色合いバランスが良く、景観を配慮した建物だと思います。



#

ちなみに NHK と住友林業の建物は、見る角度によってこのように雰囲気が変わります。以上 3 点、ご紹介いたしました。

#

ほかにも金沢市役所や金沢地方裁判所など、格子デザインの建物があります。

#

格子使いは落ち着いた上品な雰囲気を醸し出します。50m 道路のけやき道路は、マラソンコースというだけではなく、観光客を乗せたクルーズ船が停泊する金沢港と金沢駅を結ぶ道です。観光客が最初に目にする金沢の風景となります。このことから、通り沿いの現代建築にはこれからも質の良い素材を使って、木目調の格子デザインを取り入れてほしいと思います。

#

続きまして、パブリックアートを取り上げます。

#

コース沿いにはこれだけのパブリックアートがあります。

#

その中でも異彩を放つものとしては、金沢・まちなか彫刻作品国際コンペディションの作品です。金沢 21 世紀美術館の開館と金沢駅東広場の完成に併せて、

#

魅力あるまちなみの形成と賑わいの創出を図るため、2004 年と 2006 年度の 2 回、開催されました。まちなかには七つの受賞した作品が設置されております。

#

まず、スタート地点の金沢市役所にあるのは、2006 年の優秀賞「WISDOM」という作品です。

#

武蔵ヶ辻交差点にあるのは、2006 年の優秀賞「BREAKFAST」です。

#

こちらは、横安江町商店街近くの、2004 年優秀賞「風雅」という作品です。

#

安江町にあるのは、同じく 2004 年優秀賞「The Sundial」。

#

こちらは別院道入口の 2004 年優秀賞「CORPUSMINOR#1」という作品です。

#

そして、香林坊交差点にあるのは、2004 年の最優秀賞、郡順治作の「走れ！」という作品です。

#

こちらはコース沿いではありませんが、金沢駅東広場にある 2006 年の最優秀賞、三枝一将作、「やかん体、転倒する。」という作品です。

#

これらはいずれも個性ある作品です。芸術センスが高く、上品なものにこだわる金沢らしいものです。その上、作品周辺はきれいに保たれています。このことも金沢らしさが出ていると思います。

#

コンペ作品以外にも、コース沿いには数々のパブリックアートがありますが、こんなにたくさんあるとは思いませんでした。全国的にもまれな都市ではないでしょうか。それについては、あえてどこにあるかはお伝えいたしません。皆さま、お時間がございましたら市内をゆっくり散策してお探し下さい。

#

残念なのは、紹介したこの国際コンペディションなのですけれども、2 回開催されただけで、その後、開催されておりません。再び開催されないものでしょうか。

#

金沢市には、金沢まちなか彫刻設置基本方針があります。その基本理念は、金沢のまちの魅力に新たなレイヤーを重ね合わせるということで、まちなか彫刻が金沢の個性を磨き、風格のあるまちづくりと美しい景観形成に厚みを加えるとしています。

#

まちを美術館に見立て、金沢駅からメインストリートをアートアベニューとして、パブリックアートを配置し、人気の21世紀美術館へ導くことで、さらに魅力あるまちづくりを進めようというものです。

#

そういう理念でつくられた数々のパブリックアートですけれども、マラソンの参加者には紹介される機会も少なく、沿道の多くの観衆によって見えない作品も多いです。ほとんどのランナーは気が付かないまま通り過ぎてしまいます。残念だと思います。

#

左側の時計台はスタート地点の金沢市役所にありますが、見た感じ、おしゃれなデザインの時計台だと思います。皆さん、右側の「天地悠々」というモニュメントは、コース上のどこにあるかご存じでしょうか。実はここにあります。2001年につくられた土地区画整備事業の完成記念のモニュメントです。

#

スタート前に「WISDOM」に手を合わせ、香林坊で「走れ！」に手を振れば好タイムが出るなどというマラソン伝説があっても良いのではないでしょうか。

#

以上、二つのポイントを取り上げましたが、古いまちなみの金沢は粹を感じますが、取り上げた格子デザインはパブリックアートといった新しいものの中でも金沢らしい粹を感じます。このことは、ランナーや観光客の「また来たい」につながるのではないかでしょうか。

#

最後に、コースを巡って感じたことなのですけれども、景観という観点ではよく練られたコースだと思います。これぞ金沢といったところもあれば、自然も味わえますし、新しい金沢も見ていただける。金沢の良さを万遍なく網羅しているコースだと思います。あとは天気だけ。天気が良ければいいのですが。

#

まだ金沢マラソンを走っていない方、ぜひ、ランナーとして、一度、参加してみてください。金沢の新たな面を感じられると思います。今年は10月27日に開催される予定です。

#

以上で金沢マラソン、気になった沿道景観のご報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

「浅野川の情景」（馬場）

#

景観みまもりたい、馬場要です。よろしくお願ひします。浅野川の情景について発表いたします。一昨年、金沢の新しい条例「犀川および浅野川における美しい川筋景観の保全に関する条例」が制定されました。



#

そこで、浅野川に架かる橋、および、その周辺がどのような眺めになっているのか、川に沿って見てきました。上流の鈴見橋から応化橋まで、11 の橋を歩いてみました。

#

最初に鈴見橋です。この辺りは上流、下流側ともまだまだ緑豊かな自然いっぱいのところです。

#

次に常盤橋です。擬宝珠（ぎぼし）の欄干の趣のある橋です。この辺りも卯辰山の傾斜地が迫っていて、まだまだ緑濃いところです。

#

次に天神橋です。こちら上流側、この右岸の方は卯辰山の木々の緑、左岸の方は静明寺というお寺の保存樹林です。奥の山々も眺められます。

#

次に、梅ノ橋です。外観、木の橋で、どことなく懐かしさを感じる橋です。また、夜のライトアップのときも、あたかもあられが降り積もったような不思議な感覚になります。

#

次に浅野川大橋です。上流側手前から、梅ノ橋、天神橋と卯辰山の緑、奥の山々が眺められます。この辺りは観光客がたくさん通る橋でもあり、金沢の豊かな自然を十分感じてもらえる場所ではないでしょうか。

#

次に中の橋です。こちらも外観、木の趣がある橋です。上流側左岸の方、主計町茶屋街の建物が木々の間から垣間見られます。

#

次に小橋です。橋のたもとのカラーブロックの模様も特徴があります。この辺りから、徐々に緑が少なくなってきたように思います。

#

次に彦三大橋です。武蔵につながるところで交通量も非常に多いところです。この辺りから、徐々にコンクリートの建物が目立ち始めてきます。

#

次に昌永橋です。橋の横に別個に片側だけですけれども、歩道がついている橋です。また、この辺りはだんだん上流の山々は遠くなっていますけれども、家の屋根の上に見ることはできます。

#

次に中島大橋です。現在、中島大橋は架け替え工事中ですけれども、これは架け替え前の橋の写真です。歩道には視覚障害者用の点字ブロックが設置されております。

#

最後に応化橋です。橋の歩道、中ほどに踊り場があります。ここでゆっくりと眺めを楽しむこともできます。

#

このように川に沿って歩いて見ていくと、四季折々、いろいろな種類の水鳥とあうことができました。

#

以上、浅野川に沿って歩いて見ていくと、いずれの橋からも上流側の眺望は金沢の豊かな自然を十分感じることができるものでした。都市景観に潤いと安らぎを与える清流は、金沢にとって大事な財産だと感じました。そのための川筋景観の保全条例は大変大事な条例だと、歩いてみて改めて感じました。以上、浅野川の情景を終わります。

「放埒な女から野暮な女へ」（石川）

#

景観サポーターの石川毅です。どうぞよろしくお願いします。

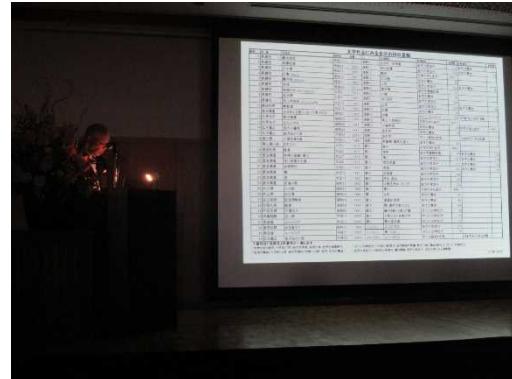
「放埒な女から野暮な女へ」と題して、文学作品から川筋景観の変化を考えてみました。

#

まず、川は浅野川と犀川に絞り、三文豪とその他の作者に分け、手分けして読み込み調査を行いました。そして、川が登場する部分を集めた引用文集を作成し、イメージが膨らむような古い写真ができるだけ集めました。次に、それらの観点を整理し、川筋景観の変化を探ろうとしました。そして、文学者の表現から、川筋の変化を追体験しようと試みました。これらを内容報告書、一覧表、引用文集、参考写真としてまとめました。

#

文学作品に金沢の川はどのように登場しているのでしょうか。これはその中の一覧表ですが、32作品、34タイトルを集め、古い写真は20枚集めました。徳田秋声は意外と少なく、泉鏡花は浅野川、室生犀星は犀川に集中していました。泉鏡花、室生犀星のころの文学作品は川と人の濃密なつながりを表現しており、それを追体験させてくれます。



#

まず、泉鏡花の『化鳥』から、浅野川の中の橋付近です。ここは俗に一文橋といわれてきました。主計町側の橋詰めに畳2畳ぐらいの番小屋があります。そこで橋銭を払い、渡ることができたといいます。

#

次に室生犀星の『幼年時代』です。自伝的小説で、冒頭の「私は犀星です。私はこの国の少年がみなやるように、小さなびくを腰に結んで、幾本も結びつけた毛針を上流から下流へと絶え間なく流したりしていた。鮎はよく釣れた」と犀川で鮎がたくさん釣れた少年時代の様子を語っています。幼いころは相当の釣り好きだったことがうかがえます。

#

犀川の左岸の大橋下手の雨宝院で育った室生犀星は『性に目覚める頃』で、「お前、ご苦労だが、ごみのないのを一杯汲んできておくれ」と、犀川の水を汲んでお茶をたてる場面からこの作品は始まっています。今はもう川幅が広くなって、雨宝院の後ろはすぐ川になっていますが、犀星のいたころの寺域は広くて木立もうつそうと茂っていたようです。「庭から瀬に出られる石段があって、そこから川に出られた」とあるように、寺の庭があり、それが川原へと続いていたらしいです。

#

洪水や護岸工事による川筋、まちなみの変貌を文学学者はどう捉えたのでしょうか。これは古い犀川大橋ですが、大正8年に市電を通すために永久橋として鉄筋コンクリートに架け替えられました。

#

杉森久英は『能登』で、「その3年後の大正11年の洪水で皮肉にも永久橋が流出し、その後に橋脚のない鉄骨を籠状に組み合わせた幾何学模様そのままの近代的デザインの橋がかけられた」と言っています。そして、「反対を押し切って、この最新式鉄橋の架橋を強行したのは、洪水の後、間もなく知事に着任した山県治郎だった」と言っています。

#

これが橋脚のないトラス構造の犀川大橋です。塗り替えられ、中央上のプレートは金箔貼りとなっています。

#

直木賞作家、唯川恵の『川面を滑る風』です。常盤橋近辺に菓子職人の娘として生まれ、長男をともなって5年ぶりに帰省した乃里子が、独自の浅野川のイメージを語るところから始まっています。「石ころだらけだった川原は残っていないにしても、常盤橋周辺からは、川の上流に医王山が眺められ、肌に心地よい潤いを与える川風は昔と同じです。

#

乃里子は、「川原がコンクリートで固められる前の石ころだらけだったころ、川の流れには水そのものに生命を感じる力強さがあった。女川といわれても、どこか放埒に生きる女を連想させた。それを流れをコントロールされるに従って、まるでブラウスの襟ボタンをきっちり首までとめるような野暮な女になってしまったように思う」といいます。作者唯川の生まれる2年前に浅野川は大洪水に見舞われ、幕末に造られた常盤橋は流出しました。子どものころ唯川が遊んだ川原は、その爪痕を残し、それが原風景となったのかもしれません。唯川はここに育って、浅野川のさまざまな表情を見たに違いありません。

#

私たちと川との距離感はどう変化しているのでしょうか。かつては、良くも悪くも身近で生活と密着していた川は、見る楽しみや、散歩したり、ジョギングしたりする親水空間に変わってきているように思います。川の風景は変わっても、文学作品に残ることで、時代時代の川筋の魅力は伝わっていきます。川に新しい魅力ある風景がつくり出されれば、新しい文学作品の舞台として二つの川は登場するのではないか。

#

今日も、犀川河川敷はグランドゴルフやジョギングの人たちで賑わっています。より良い川筋景観の創出を願ってやみません。ご清聴ありがとうございました。

「自転車と共生する未来を考える」(須崎)

#

景観サポーターの須崎秀人です。私はグループではなく、個人で活動しました。テーマは「自転車と共生するこれからの町を考えるー駐輪場の景観ー」です。よろしくお願ひします。

#

このテーマを始めようと思ったきっかけについてです。私は、自転車利用は、今後の都市環境と共生する低炭素まちづくりに重要と考えています。しかし、駐輪場には景観上の課題がありそうだとも思っています。ここから、金沢版景観対応型駐輪場というのは可能

なのかということで、今回の活動を始めました。



#

まず、金沢市内のいろいろな事例を見て回りました。これは東急スクエアの駐輪場の事例です。ここでは、かつて用水の橋の上や歩道に自転車があふれていました。本来、ここは駐輪禁止です。そこで、金沢美術工芸大学の協力の下、検討し、改善した事例となっています。

#

実際の現場を見るとデザインが優れた看板で景観が向上しています。学生たちの工夫です。この結果、駐輪が激減しています。しかし、周辺の駐輪場、例えば香林坊にぎわい広場では不法駐輪が継続しています。

#

一方、現在の駐輪場はひと目につきにくい場所にあります。このひと目につきにくい場所に押しやっている、これが果たして自転車と景観が共生といえるのかと疑問を感じました。

#

次にレンタサイクル「まちのり」の事例です。この事例では、動的景観としてのデザインの統一も図られているとあります。そこで、その現場を見にいきました。

#

金沢駅と玉川図書館の事例です。ぱっと見た目に、整然と置かれていると気が付きました。この整然と、が景観に貢献しているのではと思いました。

#

この気付きのポイントを整理しました。もし駐輪場に線が引いてあったなら、自分なら、どこへ駐輪するだろうかという問い合わせを行いました。第一に枠の中、第二に線の上、第三に枠の外です。この問い合わせ 자체、あまりにばかばかしいところがありますけれども、ここで最も重要なのは線の価値です。線があることによって整理される、そのような現象に着目しました。

#

そこで、再び現場に戻って考えました。金沢駅の駐輪場は厳しい管理の手が入っています。この結果、整然と自転車が並べられています。一方、玉川図書館の駐輪場は、さほど管理は入っていないように見受けられます。しかし、駐車場と同じく駐輪枠があり、その

線に沿って駐輪されています。ただ、この場合も、台数枠を超えると雑然と駐輪される場合も見受けられました。

#

これまでの内容を整理して提案としてまとめました。金沢版景観配慮型駐輪場コンセプトです。これを例えれば海みらい図書館にあてはめてみましょう。第一にサイクルラックなどは設置せず、線を引いて1台1枠とします。第二に利用者の多い日の対策として、屋根のない箇所にも線を引きます。第三に供用後、様子を見て整理整頓をします。放置自転車対策も行います。この方法により、費用対効果を考慮した整然とした駐輪場の実現ができるのではないかと考えました。つまりサイクルラックや屋根のある駐輪場、そのような費用をかけない、つまり費用対効果を考慮。一方で、線を引くことで整然とした駐輪場を実現するというものです。これにより自転車が整然と駐輪されている景観都市金沢が実現できるのではないかと考えました。

#

もう一つ、玉川図書館の駐輪場の改善についても検討しました。ここでは、現在の駐輪台数では休日の需要をまかなえないということがあります。駐輪場に無理やり入れ、景観を損なう場合が発生しています。また、屋根のない部分に駐輪した場合、雑然と置かれることも発生しています。この対策案として、屋根のない部分に駐輪枠として線を引く方法で対応できないかと考えました。

#

最後にまとめです。ここでは皆さんへの問いかけです。もし、駐輪場に線が引いてあったなら、あなたならどこに駐輪しますか。反論もあるかと思います。しかし、何ごともまず第一歩が重要だと思います。千里の道も一歩から、この観点で、今後もいろいろな工夫をみんなとして、景観都市金沢を目指していければと思います。

#

これで金沢市景観センター・景観みまもりたいの活動報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

トークセッション「新しい時代へ 私たちができること」
コーディネーター 宮下 智裕 氏（金沢工業大学准教授）
パネリスト 川端すぎな 氏（金沢市景観みまもりたい）
高木 信吉 氏（金沢市景観みまもりたい）
中田 廉子 氏（金沢市景観みまもりたい）

（宮下） 皆さん、こんにちは。これから 30 分、非常に短い時間ではございますけれども、景観みまもりたいのお三方に、「新しい時代へ 私たちができること」という非常に大きいテーマではございますけれども、少しご意見を聞かせていただきたいと思っています。

私は今、金沢工業大学の方で建築の教員をやっていますけれども、日ごろから金沢市とも一緒に景観行政にも関わらせていただいております。今日、皆さまの発表を伺いながら、改めて非常に丁寧に一つ一つをご覧になられ、調査されていることに、まちに対する愛を感じました。それがまずは一番素晴らしいなと思います。基調講演の坪さんのお話にもありました、「住民」というだけでなく、まさに「市民」の在り方というものを、強く感じさせていただける話を聞かせていただきました。私も大変勉強させていただいたのですけれども、ここからは、そこからさらに皆さま方にお話を伺えたらと思います。



最初に自己紹介を兼ねまして、川端さんの方から、今の活動と、どのような思いでやられてきているかをお話しいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

（川端） 私は、サポーター・みまもりたいの 3 期生で、もうすぐこの活動に携わりまして丸 6 年経とうとしておりますが、今日、発表された方、素晴らしい発表で、私はちょっと恥ずかしいのですけれども、今まで関わった調査の中には幾つかあるのですけれども、まちなかにあるポケットパーク、名古屋から移ってきて、まちの中に割と何もない空間といいますか、公園というほどではないのですけれども、緑の空間が金沢は非常に多いなと思いました、どのようものがあるのかと一回調べて、そういうことをしていました。これは、景観みまもりたいの方に勧められて調査したのですけれども、都市美賞というのがありまして、古くは昭和 53 年から、毎年、幾つか建築賞を差し上げているものがありまして、これを班の皆さんと、大体、10 年ぐらいに区切って、昔、受賞した作品は、今はどうなっているのかという調査をして、受賞したころと今と写真を比べるという調査もしていました。これは自分でやりたいと言った調査ではなく、はじめは「えっ」と思っていたのですけれども、実際、行ったことのないような場所、今、ここは太陽丘にある幼稚園ですけれども、きつねさんがいたりして、まちなかでは見られないような変わった建物なんかと出会うことができて、とても楽しかったです。このような活動をしてきました。

(高木) 高木といいます。15年ほど観光ボランティアガイドに携わっておりますけれども、8年前にみまもりたいに参加しました。それから2年後に、私は金沢の建築、古い建物、特に犀川沿いの蛤坂にある4階建ての木造建築とか、あるいは主計町にある3階建ての木造建築とか、そういうものを調べて発表しました。

いつの間にか、それから8年経っているのですが、金沢観光ボランティアガイドを通して、金沢においてになる皆さん、ほとんど100%に近い人が印象的にはまちがきれいだというわけです。何がきれいなのだろうと思いながら、私自身も実はほかのところに行ってそういう目線で見るようになったわけです。確かに違います。金沢は、やはり厚みがあり



ます。そして、皆さんご存じだと思うのですが、新橋演舞場で支配人をやっていた岩下尚史さんでしたか、この人は金沢へ初めて来たときに、何のいわれもない人なのですが、初めて来たときに、金沢は懐かしさを感じたと。何か知らないけれども京都とは違う。懐かしいまちとして感じたというわけです。その美しさと懐かしさ、これを兼ね備えたのが金沢のまちではないかと思っています。

(中田) みまもりたいの中田です。私は、まだボランティアになって4年なので、二つのテーマについて取り組みました。一つ目は、まちなかに残る金沢らしい景観を支える木彫看板です。結構、今、たくさんの看板があるのですが、これらの看板は建物も趣がある老舗が多いです。とても素敵で残したいと思うのですけれども、残すためにはとてもお金がかかる、手間がかかる。廣瀬印房のところですけれども、上のところの元のところがだいぶ傷んでいます。それを修復して、今、きれいになっているのですけれども、そのようにして手間ひまがかかるということが一つと、もう一つは、看板ですから、お店がなくなったら看板はなくなりますので、大体こういうお店は商店街にあります。その商店街自体が時代にのまれて、栄枯盛衰があって、あまり入らなくなるとお店も心配だなということがあります。単独のお店ならなおさらそういう心配もあります。この調査をしている最中に、大変素晴らしい商家の看板のお店がなくなったということもありました。それからもう一つ、新しい看板についてはきちんと審査するという形式になっていて、看板屋さんと美大の先生で、この看板はこのまちなみにこれでいいのか、色と大きさがいいのかということを検討されているということが、このボランティアになって初めて知ったことで、大変驚きました。

二つ目のテーマは、先ほど紹介があった川筋景観を文学作品から見るということで、もう見えなくなった風景を文学のいろいろなことで追体験できるというとてもいい体験をしました。例えば犀川大橋は造るときものすごくブーイングがあったというのは、やはり新しいものを受け入れにくい金沢人気質が見えてきたとか、浅野川の唯川恵さんの作品では、護岸工事をやることで放埒な女から野暮な女になっていくという表現の素晴らしさとか、それでまた川筋の状況の変化とかが分かったということで、そういうものを残していく、良い景観を残していくために川筋景観条例ができているということで、金沢固有の景観を

残すために市行政がものすごくいろいろな条例を作っているということは、ここに入らないと分からなかつたことなので、行政もすごいのだなということが分かって、ボランティアになってとても良かったと思っています。

(高木) ちょっと追加していいですか。先ほど言い忘れたのですが、ひがし茶屋街の様子を見たときに、8年前に調査したときは駐車場があったのですが、それが最近なくなつたのです。画面にも、用意しましたけれども、その景観の違いは最たるものだと思っており、この活動に参加して良かったと思っています。

(宮下) その辺も、またもう少し後でお話を伺えればと思うのです。では、まず川端さんに伺いたいのですが、非常に重要なポイントとして、ご出身が金沢ではないことがあると思います。違う都市から来られて金沢にお住まいになられた。そういう中で、ポケットパーク等のお話もありましたけれども、実際、金沢とご出身のまちとの違いを比べていく中で、感じ取られた点などをもう少しお聞かせください。割と良い例というのは、今までの話の中で出ているのですけれども、逆にもう少しこういうふうになつたらいいのではないかとかいう点はありますか。

(川端) それがちょうど今日のことです。うちの近所に北溟寮という昔からの金沢大学の寮があつて、私は8年ぐらい前から住んでいて、最初はちょっとびっくりしたのですけれども、北溟寮では毎日飲み会で、すごい声で「お誕生日おめでとう」と歌っているのが聞こえてきたり、夏は火事かなと思うぐらいのキャンプファイヤーをしたりしても誰も文句を言わないのはすごいなと思って、それをみんな「あ、やっているよね」と、何かそれが土地丸ごと一つの特徴というか、北溟寮あつての弥生地区というか、そういう感じがしていました。そこが本当に更地になつたのです。今日、ここへ来る前に歩いていたら、何もなくなつて、学生もいなくなつてしまつた。それというのは、丸ごと文化があるように、学生時代を思い出したりするものも全部なくなつてしまつた。

京大ですか、景観上、看板も外して、寮も取り壊すというので、ものすごい反対があり、新聞などでもすごく騒いでいて、金沢はそういう反対運動があつたとは聞かないですし、割とお上のやることはしようがないなという空気がこの一帯にはあるのかなと。お上が割とやさしく、景観をいろいろやってくださつていているのですけれども、住民の人もちょっと「うん?」と思ってくれていたならば、違う形で寮が残つたのではないかというのがあります。

(宮下) 先ほどの坪先生のお話にもありましたけれども、景観というものは見えるものだけではなく、何かそこにある生活、文化というものが合わさつて価値が生まれていき、それが景観になるというお話がありましたけれども、まさにそういう非常に素晴らしい事例だったのかなと思います。

そういう話でいいますと、先ほどの中田さんがやられている木製の看板もその一例かと思います。あれも商いという、生業とつながつてたり、文学などともつながつたりすることでも生活がその景観に映されているということですよね。一方、問題点として、維持

するのが難しいとかというお話がありましたが、何かそれ以外にも、木製看板がどうやつていったら残っていくのだろうと考えられたことはありますか。

(中田) 調査に伺つたら、意外とお店の人は大事にしているようで、そうではないのです。「いつのものですか、誰の字ですか」と伺つても、「さあ、先代の人は知っていたけど、私まで伝わってない」というのが意外と多くて、きちんと後ろに名がある場合は○○とかと分かるのですけれども、そうではないものあります。行政はどうなのかというのもあるのですけれども、やはりその価値を分かつてもらうためには、何か、今、取り組みを始められるらしいのですけれども、これが良い看板ですよと推奨していくという手立てを今後やってくださるそうなので、またさらに下調査をしているのです。やはり持ち主の方もそれがすごく重要だ、良いものなのだということが分かつてくださるということがすごく大事で、私は市民の目線としてそういうものを調査しながら、あとは県民大学の講師をしているので、それを来たお客さんにお話しして、「これ、すごく良いものなのですよ」というふうに宣伝をしていくという活動もしています。

(宮下) やはり、皆さんの意識や、それ的重要性に気づくことが重要ということですね。なくなってしまってから初めてその重要性に気が付くことというのは、実はいっぱいあって、そういう部分も含めて考えていかなければならないと思います。これに関連すると思いますが、金沢の観光の在り方がこの数年、新幹線開業以降はかなり変わってきたていると思います。その中で、そういう文化的なものが、単に観光目的に残されるのではなく、皆さんの暮らしの豊かさが、結果的に観光的価値になるということが重要なのかなと思うのですけれども、高木さん、いかがでしょうか。観光に一番お触れになられる立場の方ではないかなと思うのですけれど。先ほど、がっかりというお話がありましたけれども、何かそういう意味で問題点みたいなものをもう少しお話しいただけたらと思います。

(高木) やはり、言われて初めて気が付くのです。自分たちはそこにいると分からない。最近、写真をよく撮っていくわけですが、よく見ると、自分の思いではないものが写っているというのはよく苦情としてありました。景観というのは、そういう目線で見ると、その人たちの希望する、期待する映像が得られなかつたら、大抵言葉に出るのです。ずっと向こうにやぐらがあるとか、山だけが欲しいのに、何かいろいろな電線が見えるとか、いろいろなことをおっしゃるわけです。そういう意味で、自分の意識改革というのはできたわけです。

私自身もほかのまちへ行ってびっくりしたのは、例えば近いところだと高岡です。日曜日にまち歩きをしてみたのです。誰も人がいないのです。商店街を通ったのです。「今日、日曜日だから店は閉じているの」と聞いたら、「みんな、やっているのですよ」と言う。誰もいないのです。若者がいない。それで、駅の近くとか大和の賑やかなところに行ってみたのですが、やは



りがらがら。どこに行ったのだろうといったら、みんなイオンです。「ええっ」と思っていたのですが、実は去年の秋に青森十和田の方に行ったら、十和田のまちもシャッター通りでした。横安江町商店街みたいなアーケードがずらっと並んでいて、やはり休みなのには人がいない。おかしいなと思って聞いたら、地元の人が笑うだけ。こういうまちになってしまったならまずいのだなと。そういう意味では、前の21世紀美術館の秋元雄史さんがやはり「イオン戦争」という言葉で本に書いていました。そのようなことで、人が来られておっしゃる、聞く、初めて感じる金沢というのは、われわれもまた改めて見なければいけないなといつも思っています。

(宮下) 今、それぞれのお立場や活動から見られる、いろいろな問題みたいなもののお話を頂きました。今、お話があったものは、行政主導で対応するべきことというより、実際に住んでいる市民側がどういうふうに問題に対して向かっていくべきなのかというところのヒントがあるように思います。今日のテーマも含めて、こういった問題に対して、今、我々市民がどのようなことを意識として持っていったらいいのかということについて、もう少しお話を頂けるといいなと思いますけれども、いかがでしょうか。

(川端) 名古屋もそうなのですけれども、地元思考が強いというのがあって、若い人たちが割と県外にいても、いつかまた帰ってきてお家を建てたりとか、私の見ている限りでは、何となく若いうちからマンションを買うよりお家を建てようみたいな人が多い気がするのですけれども、そのときにいろいろな補助があるのです。実は、県内産の木材を使うと幾ら税金の免除とか、細かくは分からないのですけれども。そういうので、結婚した人に何か景観に配慮した建物を造っていただけるように、冊子みたいなものを結婚と同時に配ったらしいのではないでしょうか。

市民というのは、そんなに意識が低いわけではないのですけれども、メーカーで安いからと安っぽい建材を使ってしまうと、そこに1軒それがあると、せっかく町家が揃っていても、そこが一つ安い感じになると全体が崩れてしまうというのがあるではないですか。そこで、最初からいろいろな制度があるのだったら、県内産を使ったらどうですかとか、

最近だとエコというか、そういう流行りというか、若い人は皆さん意識も高いですから、そういうふうに最初から啓蒙していくと、お家を建てるときに考えていただける。いちいち自分で勉強するのは、意識の高い人はいいのですけれども、それでは手遅れで、学校の授業でやるのが無理だとしたら、若いお家を建てる人たちに、何かそのような補助制度について説明を分かりやすくしていくといいのではないでしょうか、



(宮下) ご自宅をお建てに金沢に来られたと、事前に伺ったのですけれども、そのときに何かそういう意識をお持ちになられたのですか。

(川端) 名古屋だと全くそういう意識がなかったので、ペンションみたいなところに住んでいるのですけれども、それは嫌だなと。金沢にいるのだったら金沢でしかできないような、しかも、あまりコストもないのですけれども、いろいろこだわり始めると、小松瓦とか能登の杉とか、それをすると補助もあったり、優良住宅ということで税金免除があつたり、良いことづくしなのです。私のお家と昔からあるお家と、やはり素材が揃うので、それは自分がずっといるといつても100年も生きないですから、次の人がまた住んでくださるようなお家にしようというのが目標だったので、それで良いことづくしなので、それをやっている人は自分の市内で全然いなくて、やはり間取りのことばかり。新建材とか新しい素材、一つでもそういうお家があると全体が崩れるなというのはすごく実感しています。

(宮下) もちろん、重伝建やこまちなみなど、行政が作ったある一つの区域に入ると、否が応でも皆さん意識はするのですが、それを少し外れてしまうと、割と自分の住宅とか建物が本当にそのまちなみをつくっているという感覚は弱くなるところがあります。一方で、金沢というのは、ほかの都市に比べて、そういう区域以外の景観ともつながりがある美しいまちであるような気が、私はしておりますので、やはりその辺は非常に重要なポイントかもしれません。高木さんはいかがでしょうか。

(高木) 金沢で私が好きなところは、広坂の中央公園、セントラルパークになるわけですけれども、あの辺、富山ですと富岩運河環水公園の広い空間です。そのようなわけで、今、話題になっている金沢駅前、あそこに駐車場とかビルが建つと面白くないです。本當は私の気持ちとしては、あそこを公園みたいにして広い空間にすることによって、観光客は一般的に金沢というまちは小さくて、まちなみがこちよこちよとあるようなことをイメージしておいでるのですけれども、このようなところもあるのだよという広い空間ですね。特に西口の方の50m道路の方はぱっと広がっています。東口は何か狭い感じがします。車が混雑してごちゃごちゃしています。今、何もない空間を見ていると、「うわ、金沢っていいな」と思うわけです。それで、ぜひとも皆さん、あそこを広い空間のままにしてほしい。公園にしてほしい。駐車場を造るのなら地下にしてほしいと声高に言ってください。

(宮下) 特に駅から武蔵、そこから21世紀美術館、もしくは主計町、ひがしの方に行く辺は、以前に比べると歩行者がかなり増えてきているエリアです。ですから、そういった広場やポケットパークのお話もございましたけれども、そういったまちの潤いというのは、やはり考えていきたいという部分です。ありがとうございます。では、中田さん、いかがですか。

(中田) まだまだ勉強している最中なのですけれども、やはりどうしても車で動いてしまうことが多いので、金沢のまちをもうちょっと歩かなければいけないなと思っていまして、例えば、この間、水溜町の町家のレストランに行きました。とてもいい雰囲気の中でお友達と食べて、こまちなみが広がっているのです。そこをまた歩くというのはすごくぜいたくな空間で、犀川河川敷でも寺町台地があるところの斜面緑地がある程度修復されていて、至るところに金沢固有の景観が広がっていて、歩けばすごく魅力が実感できるとい

うことで、もっと歩いて知らなければいけないと、こういうお話を知らせて一緒に歩けたらいいなと今は思っているのです。

ちょっと気になるのが、先ほど川端さんが言われたのですけれども、いろいろと規制してコントロールすることはとても大事で、なくなった後に気が付いたら遅いのですけれども、ちょっと元気がなくならないかなと。商業地区は、ある程度、そうでもないのですけれども、全体的に色のトーンとか大きさが、看板が小さくて落ち着いたまちだねと観光客の方はおっしゃるのですけれども、ちょっと元気はどうなのかということが、よく分からぬのだけれども、何となく気になるという面があります。



(宮下) 金沢というのは、美味しいものがあり、それから空間、建築自体のしつらえも素晴らしい、衣食住全てに文化がある。そんなまちなみ、景観も含めた、トータルの魅力というのが金沢の大きな魅力ではないかと思います。これはなかなか他の市ではつくれない。先ほどからいわれている文化と景観が非常に深く絡んでいるということだと思います。その辺も含めて、ぜひこれからさらに考えていかなければいけないと改めて思いました。その場所に適したもの、文化を残す場所、新たな元気を生み出す場所、それから、守りながら融合させていく場所、みたいなものを一つ一つ丁寧に考えていくことが重要なのかなと思います。本当に短い時間ではございましたけれども、ひとり通り皆さんのご活動を通して思われていることのお話を伺いました。

最後に、「新しい時代へ私たちができること」というテーマの中で、何か皆さんにまとめとしてご提案というか、お話しいただけたことがありますら、お一人ずつお話しただいて締めたいと思います。

(川端) 景観サポーター募集中ですので、ぜひこの機会に私たちの仲間になってください。よろしくお願いします。ありがとうございました。

(高木) きちんと締めてくれましたので、これ以上、言うことはありません。ありがとうございます。

(中田) 私、大名庭園のグループにも入っているのですけれども、その先生が言われる標語なのですが、「僕のお家も景色の一つ」というすごく好きな標語で、やはり先ほどの家を建てるだけではなく、いろいろなことをするときに、自分のすることが全体を良くすることにつながるという意識がもっと広がっていったらいいなと個人的には思っています。ありがとうございました。

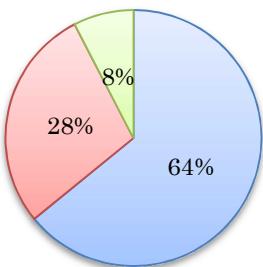
(宮下) 拙いモダレートで申し訳ございませんでしたが、今、最後にお話しいただいた通り、まさにまちづくり、景観づくりというのは何十年というスパンをかけて徐々に良く

していくもので、これは住んでいる市民一人一人が、生活や文化に向き合い、景観と向き合うことで、徐々に積み上げられていくものだと思います。今までのものも継承しながら、また時には新しいものを作り出していくことだと思います。そういう意味でいうと、今日のお話は市民の方の意識がそのまま形になっていくものなのかなと、皆さまの発表を見せていただきながら改めて思いました。本日ご参加してくださっている方たち、それから景観サポーターの方やみまもりたいの方たちと一緒に考えてくことで、少しずつ、一歩一歩金沢のまちが魅力的になっていくことを期待しまして今日のトークセッションは締めさせていただきます。どうもありがとうございました。

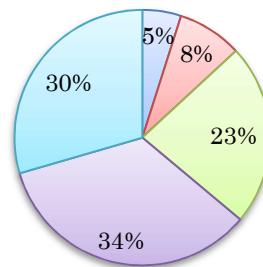


アンケート調査結果

■回答者の個人属性

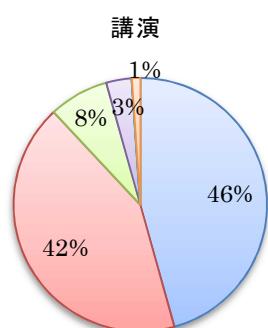


■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答



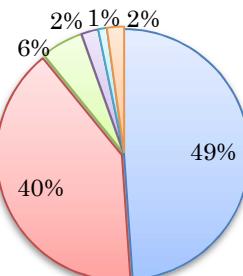
■ 30歳未満 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代

■ 満足度

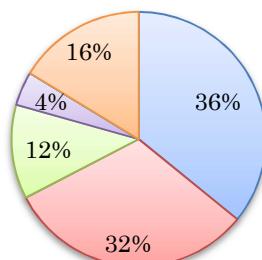


■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満 ■ 無回答

講演
サポートー・みまもりたい
活動報告



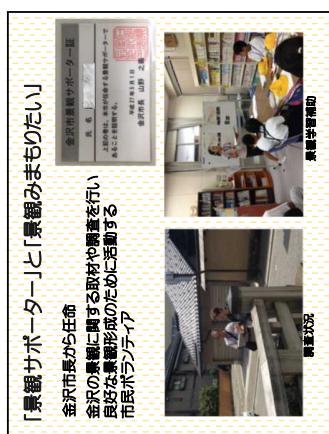
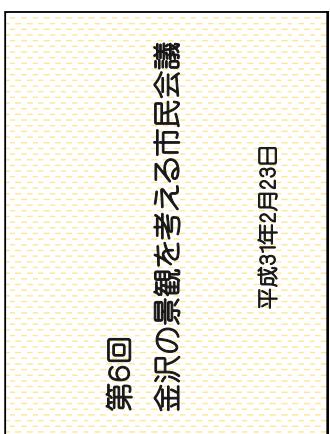
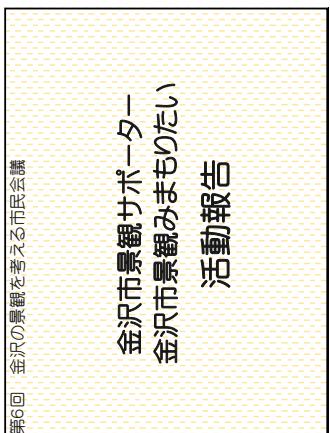
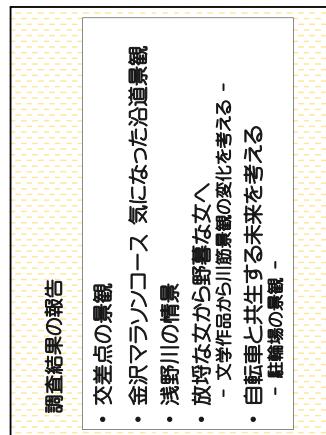
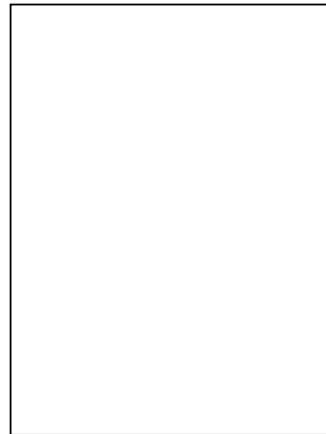
トークセッション



■自由意見

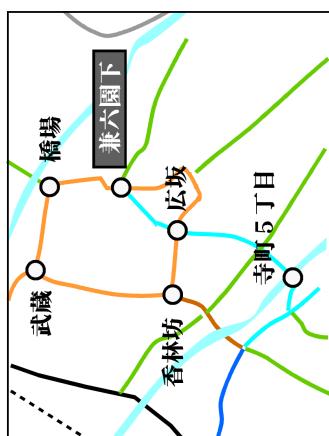
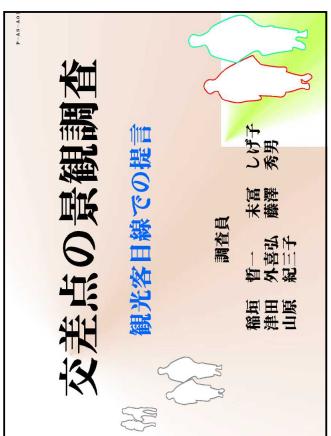
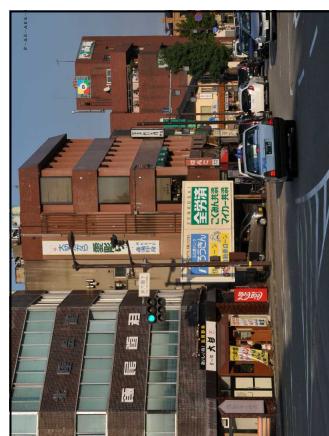
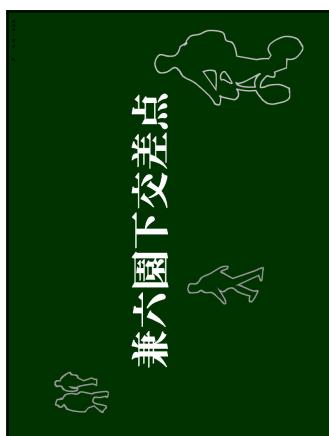
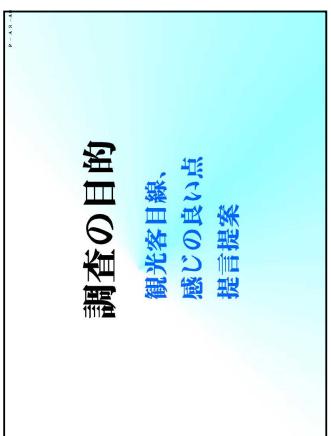
40歳代	男性	大勢が市民会議に参加していて意識の高さを感じた。市民の皆様の活動が素晴らしい景観を支えていることが改めて分かった。本日は、勉強になった。市民の景観を考えるレベルの高さに驚いた。
40歳代	女性	トークセッションの話がとても楽しかった。改めて、金沢の良さ、大切にしなければと思うことが多く感じた。
50歳代	女性	今まで何気なく通っていた町並みや交差点等の見方が変わってくると思う。今後も市民に対し、様々な発信をお願いしたい。トークセッションをもっと聞きたかった。
40歳代	男性	いろいろな視点からの捉え方があることを認識できて、すごく新鮮だった。市民会議としてはいいのだが、全く逆の大局的な視点でのシンポジウムの開催を望む。
40歳代	男性	景観サポートー・みまもりたいの発表内容のレベルの高さに驚いた。
50歳代	男性	景観サポートー、みまもりたいの活動報告もよく調べられてよかったです。もっと、金沢の景観に興味を持つ人が増えてくれることを希望します。
40歳代	—	市民のみなさんの景観に対しての想いや熱意を感じた。これからも継続して発展させていって欲しい。
60歳代	女性	景観が「眺める」と共に「眺められる」という視点を知り、自分の生活を見直す良い機会になった。
50歳代	男性	市民からの発表は今度も継続してほしい。

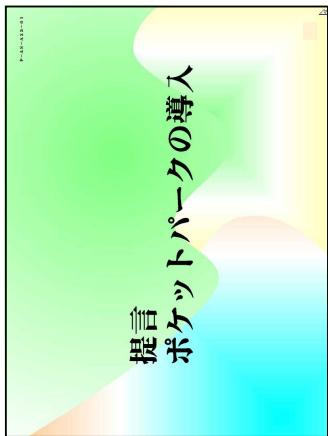
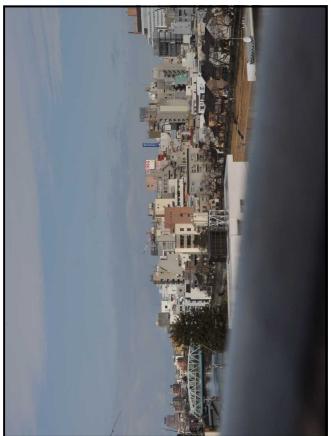
50 歳代	男性	基調講演は、実践してきた内容から、重要なポイントを端的に示してもらつてわかりやすかったが、内容が濃い分、若干難解な部分もあった。サポートーの活動報告は、市民目線で明解だった。文学にからんで情緒的な分析もあり身近に感じた。トークセッションは、金沢のいろんな景観資源への視点の異なる捉え方があり、活動としての充実を感じた。「僕の家も景色のひとつ」と言っていいと思う。
50 歳代	男性	景観サポートー、みまもりたいの活動に感謝します。大聖寺でのまちづくりでの公、公共、私の三元論は本当に必要であると思った。トークセッションでの古い歴史ある看板はぜひ大切に維持していって欲しいと思います。
50 歳代	男性	「川」と「文学」が絡んでいるのが興味深かった。サポートー・みまもりたいの金沢への思い、守りたい気持ち、誇りが感じられた。金沢らしい「〇〇」という言葉が欲しい。サポートー・みまもりたいの守りたい思いをどのように提案していただきたい。トークセッションでは、景観とは「生活」「なつかしさ」など、過去～現在も含めたことでもあると気づいた。また、金沢の市民気質が景観をつくり、守られているのでは、やはり、人が景観、そして金沢をつくっていると感じた。
30 歳未満	女性	正面のスクリーンの下のほうが人の影で見えなくなるので、スライドを印刷したものを配布するか、サイドのスクリーンでも映して欲しい。活動報告の完成度が高く考えさせられた。
60 歳代以上	男性	観光客が良いと感じてもらえるように街中の景観づくりへの投資が多い様に感ずる。郊外においても、景観を良くしてほしいところが多くあります。郊外にも目を向けての取り組みに期待したい。
60 歳代	女性	様々な観点から地道な活動により、景観を考えられていることを知り、どんな形でも協働に参加したい。
60 歳代以上	男性	歴史的資源と未来型環境都市のマッチングをいかに進めていくか、又、基礎的には防災へのベース造りも大切と考えさせられました。美観（文化的）も市、町の価値を生んでいく。市民に経済の上に文化や町がある認識をさせる。
60 歳代以上	男性	景観の目的と効果について認識を新たにした。都市の顔は何によって生まれるか。都市計画と空間の機能、生活の利便性とどう関係するのか。人間の精神的成长と環境は深くかかわると思う。空間の景観的視覚的効果は大切なものと思う。生活の豊かさとは何かと考えさせられた。個人の感覚捉え方はどうか。見て、伝えて楽しくなる町。町づくりの目的は町づくりと文化度。課題は多く町づくりの目線は。他の都市との比較論も大切だ。
60 歳代以上	男性	成功事例、提言案は普段では聞くことが出来ない内容で興味深かった。提言案の取り組みの進捗が知りたい。
60 歳代	女性	画像がわかりやすく、とてもよく観察されている。金沢のすばらしい景観に改めて気が付いた。
60 歳代	女性	幼少の頃過ごした浅野川近辺を思い出し、当時が懐かしくなった。改めて、金沢の良さを感じた。来てよかったです。
50 歳代	女性	活動報告は冊子でまとめるだけでなく、市のHPや動画として市民の方々が見れるようにして欲しい。「文学作品から川筋景観の変化を考える」は文化的景観として川筋を考えるとてもいい報告だ。「癒しの景観」という言葉はこれから金沢のイメージを表すキーワードになると思う。緑地やパブリックアート、町屋、看板などと関係のある風景がいい癒しの景観となる気がする。トークセッションは生の声がきけて良かった。

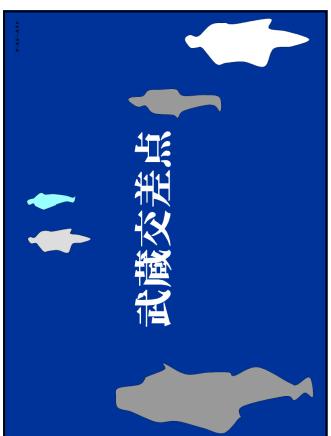
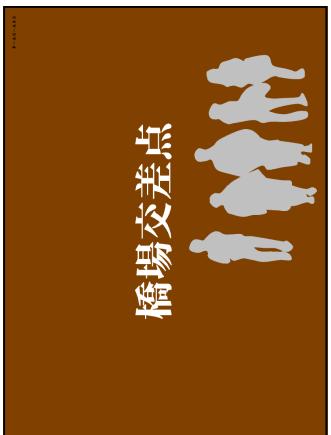


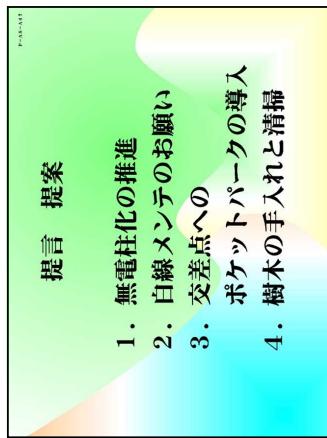
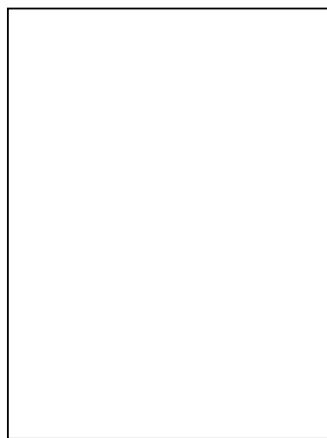
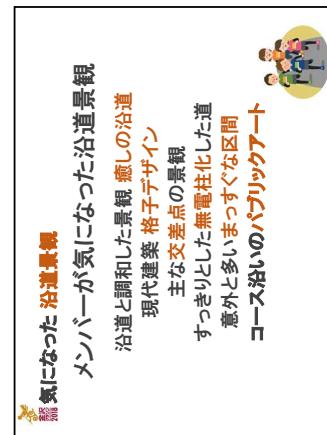
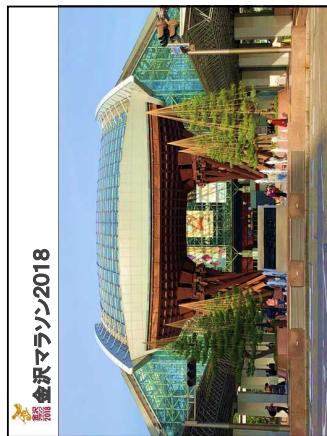
登録人数

期	平成20年度～平成22年度	サポート 9人	みまもりたい 9人
2期	平成23年度、平成24年度	25人	—
3期	平成25年度、平成26年度	11人	14人
4期	平成27年度、平成28年度	11人	16人
5期	平成29年度、平成30年度	9人	21人











金沢
現代建築 格子デザイン



金沢
現代建築 格子デザイン



金沢
メンバーが気になつた沿道景観

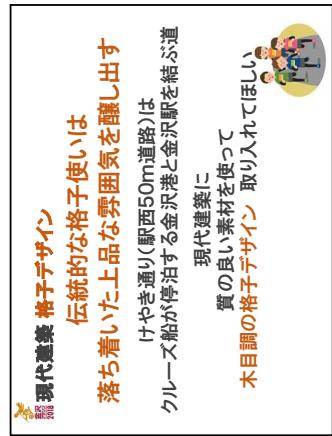
沿道と調和した景観の沿道
主な交差点の景観
すつきりとした無電柱化した道
意外と多いまつすぐな区間
コース沿いのパブリックアート



金沢
現代建築 格子デザイン



金沢
現代建築 格子デザイン



金沢
メンバーが気になつた沿道景観

NHKも住友林業も見る角度によって違う雰囲気
落ち着いた上品な雰囲気を醸し出す
けやき通り(駅西50m道路)は
クルース船が停泊する金沢港と金沢駅を結ぶ道
現代建築に
質の良い素材を使つて
木目調の格子デザイン 取り入れてほしい
コース沿いのパブリックアート

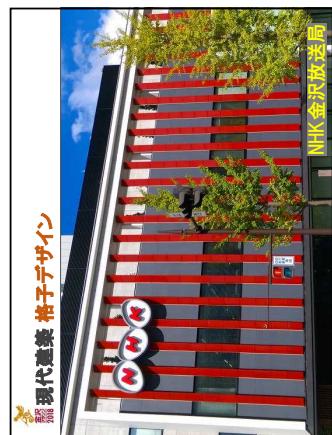


金沢
メンバーが気になつた沿道景観

沿道と調和した景観の沿道
主な交差点の景観
すつきりとした無電柱化した道
意外と多いまつすぐな区間
コース沿いのパブリックアート



金沢
現代建築 格子デザイン



金沢
現代建築 格子デザイン



金沢
メンバーが気になつた沿道景観

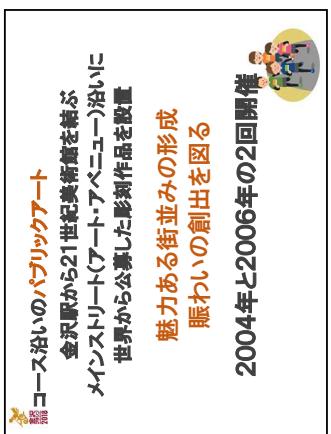
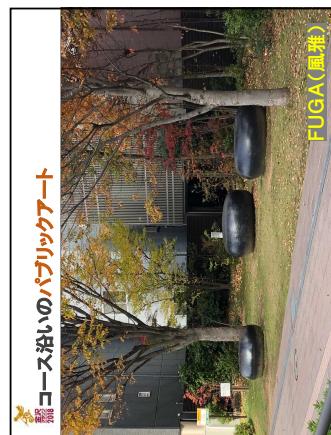
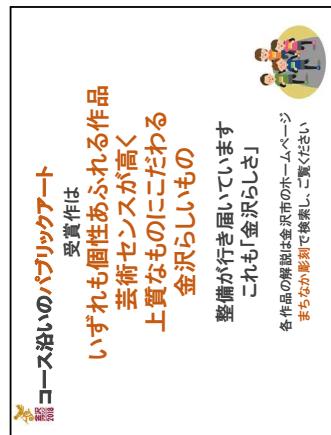
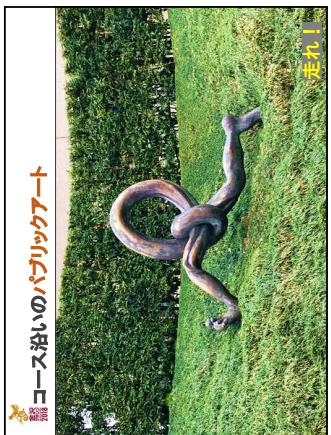
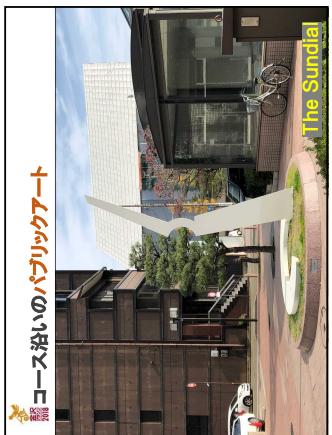
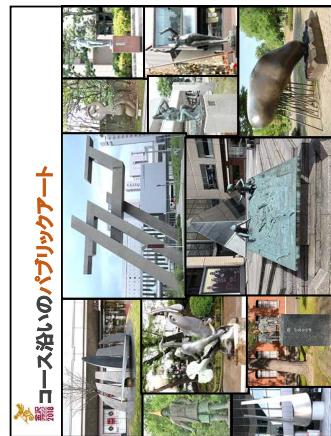
沿道と調和した景観の沿道
主な交差点の景観
すつきりとした無電柱化した道
意外と多いまつすぐな区間
コース沿いのパブリックアート



金沢
現代建築 格子デザイン



金沢
現代建築 格子デザイン



金沢 沿いのパブリックアート

古いまちなみの金沢には“粋(すい)”がある
現代建築の格子デザインやパブリックアートなど
新しいものにこち
金沢らしい“粋”を感じます
ランナーや観光客の
「また来たい！」につながる

金沢 沿いのパブリックアート

スタート前「WISDOM」に手を合わせ
香林坊で「走れ！」に手を振れば
好タイムができるなんて言う
マラソン伝説をあっても いいんじゃない
重ね合わせる

金沢 沿いのパブリックアート

金沢マラソンを走ったことがない方
ランナーとして参加してみてください

今年は 10月27日

街を走ることで
金沢の新たな面を感じられると思います

金沢 沿いのパブリックアート

コース巡って感じたこと
景観はよく練られたコース
「金沢らしい」という景観
自然も味わえる
新しい金沢も見ていただけげる
金沢の良さを満遍なく網羅している
走りやすいコース
あとは 天気だけ！

金沢 沿いのパブリックアート

コース巡って感じたこと
景観はよく練られたコース
「金沢らしい」という景観
自然も味わえる
新しい金沢も見ていただけげる
金沢の良さを満遍なく網羅している
走りやすいコース
あとは 天気だけ！

金沢マラソン2018

ご清聴ありがとうございました

金沢 沿いのパブリックアート

金沢まちなか彫刻作品
国際コンペティションは
2006年以降
開催されています

再び開催
できないものでしょうか

金沢 沿いのパブリックアート

マラソン参加者に紹介される機会少なく
沿道に多くの観衆が集まる
見えない作品が多い
ほとんどのランナーは
気付かずに 通過してしまいます

機念！

金沢 沿いのパブリックアート

天地悠久
金沢西側二工区開発事業実施記念モニュメント

金沢 沿いのパブリックアート

金沢まちなか彫刻作品
国際コンペティションは
2006年以降
開催されています

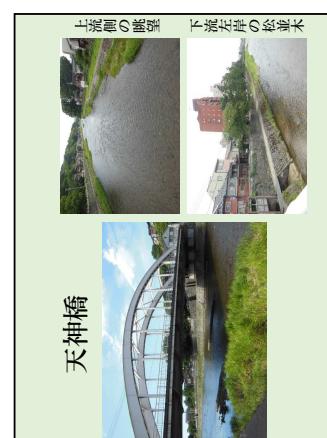
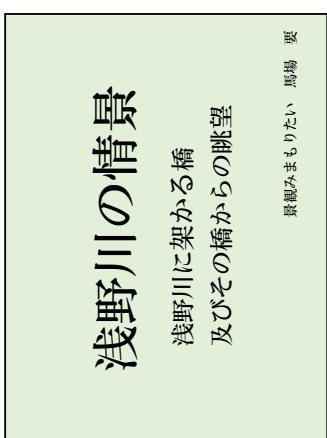
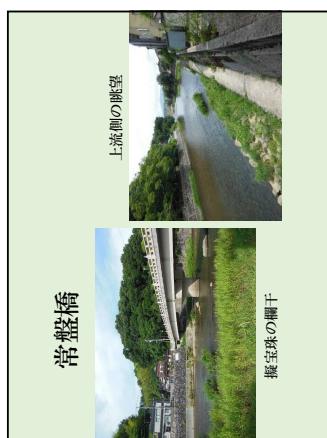
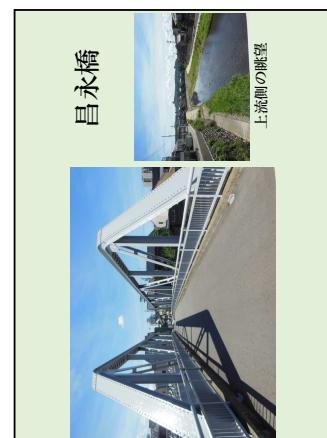
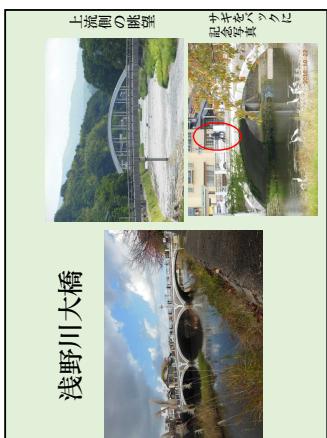
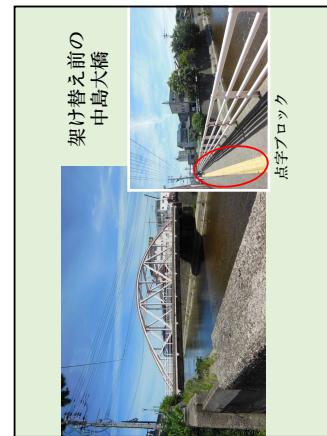
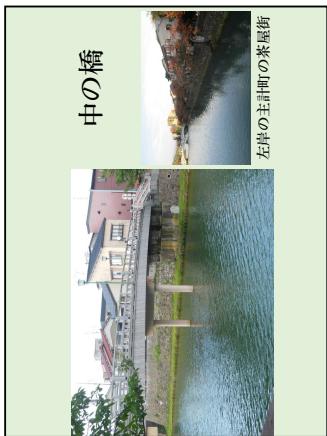
再び開催
できないものでしょうか

金沢 沿いのパブリックアート

天地悠久
金沢西側二工区開発事業実施記念モニュメント

金沢 沿いのパブリックアート

天地悠久
市役所時計台



自転車と共生する未来を考える =駐輪場の景観=

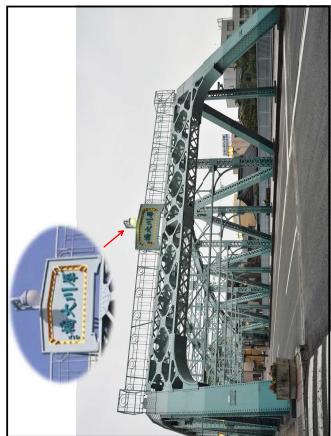
The image is an aerial map of the Koganei area in Tokyo, centered on Koganei Station. A red rectangular box highlights the proposed location of the bicycle bridge across the tracks. The map shows various buildings, roads, and parking lots. A legend in the bottom right corner indicates symbols for stations, parks, and other landmarks.

はじめに・テーマのきっかけ

自転車利用は、今後の都市環境と共生する
「低炭素まちづくり」に重要
しかし、駐輪場には景観上の課題がありそう。

かなざわ駅景観配慮型駐輪場

は可能なのか。



それは幼い頃から見慣れた風景への憧憬ばかりでなく、かつて感心した流れの隙間からたちのぼるような野生の匂いを感じられた。鱗を輝かせて跳ねる魚や、川底にへばりついて捕れる藻。それをなぶりながら流れる川は、水そのものに生命を感じる力強さがある。あつた、「女川」と呼ばれていたところが放時に生きる女を連想させた。

それが流れをコントロールされるに従って、まるでアラウスの船着場をききうちり首までじめるような野獣的な女性になってしまったようだ。



杉森久美『龍堂』（昭和五十九年）

市中心にかかる犀川大橋が、田舎時代の木橋から、洋風の石橋に変わるのは正八年（1882）のことだが、三年後の正十二年（1886）の洪水で流出した後は、鉄骨を籠木に組み合わせて、幾回も学様様式のままの近代デザインの橋がかけられた。

木造のもののはねらち着いた古雅な味に執着する吉賀質の市民は、百万石の風致を大事にすることや、かましまく文句を言つたが、諂ひ話をした技術者は、只々懇意なうの橋しか作るところが、今は今段階ではこの龍堂の鉄骨しか作れないといつて主張した。

それには、今段階では、この最新式鉄骨の架設を強行したのは、洪水が原因のことなど、まもなく知れ事に着任した山県治郎だった。

反対を押し切りで、この最新式鉄骨の架設を強行したのは、洪水が原因のことなど、まもなく知れ事に着任した山県治郎だった。

吉賀質と吉田山、吉田山の出版
2005年

唯川恵『川面を背る風』(平成十年)
金沢には街の西と東に二本の川が流れて
いる。男川と呼ばれる犀川と、女川と呼ば
れる浅野町川。今井弓子の美集は、浅野川にか
かる常盤橋にほどこだしかば場所にある。
そこでは能や雨や台風の雨で静水し、こら
一帯を水没気にしたところもある。浅野川だが、
護岸工事の行き届いた現在は、そんなこと
は沣てやんない。
川原は、两岸を
コンクリートで固め
繋いでいる。
洪水がないのは有り
難いが、その変態に
今里子はどこかが
遠和感を覚えていた。

```

graph TD
    A[私達と川との距離感はどう変化しているか] -- "今→見る楽しみ、散歩したりショシンクしたり" --> B[する親しみの空間]
    B -- "昔→生活に密着、良くも悪くも身近な場" --> C[川の風景は変わっても、文学作品に残ることで、時代時代の川筋の魅力は伝わっていく。]
    C -- "川筋、川に新しい魅力ある風景が造り出されれば、新しい文学作品の舞台として、二つの川は登場するのではないか?" --> D[のところか。]

```

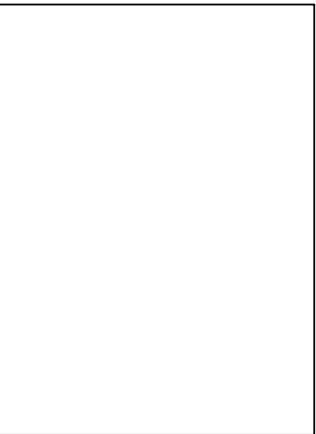
私達と川との距離感はどう変化しているか

今→見る楽しみ、散歩したりショシンクしたり
する親しみの空間

昔→生活に密着、良くも悪くも身近な場

川の風景は変わっても、文学作品に残ることで、時代時代の川筋の魅力は伝わっていく。

川筋、川に新しい魅力ある風景が造り出されれば、新しい文学作品の舞台として、二つの川は登場するのではないか?



【事例2】レンタサイクル「まちのり」

玉川図書館
金沢駅

はとと見た目に整然と置かれている
「整然と」が景観に貢献しているのでは

もじ、駐輪場に線が引いてあつたら、
あなたなら、どこに駐輪しますか。

① 柵の中
② 線
③ 柵の外
千里の道も一歩から

本日の報告テーマ		
報告順	タイトル	報告担当者
1	交差点の景観	未署
2	金沢マラソン 気になつた沿道景観	西山
3	渡野川の情景	馬場
4	放課後女から野菜な女へ、 - 文学作品から施設景観の変化を考える -	石川
5	官能車と共生する未来を考える - 駐輪場の景観 -	須崎

【事例2】レンタサイクル「まちのり」

玉川図書館
金沢駅

はとと見た目に整然と置かれている
「整然と」が景観に貢献しているのでは

もじ、駐輪場に線が引いてあつたら、
自分なら、どこに駐輪するんだろうか。

【事例3】金沢駅・玉川図書館

玉川図書館の駐輪場
金沢駅の駐輪場

金沢駅の駐輪場は、厳しい管理の手が入っており、
整然と駐輪車が並べられています。
玉川図書館の駐輪場は、さほど管理は入っていない。
駐輪場周辺に駐輪枠があり、その線をはばつて駐輪している。台数を超えるほど整然と駐輪される場合もある。

提案 かなざわ版景観計画型駐輪場コンセプト

玉川図書館の駐輪場の改善
現在の駐輪台数だけでは、
休日の需要をまかねえない。

駐輪場に無理やり入れ、景観を
損なう場合が発生
屋根のない部分に駐輪した場合、
整然と置かれる場合も発生。

【対策案】屋根のない部分に、駐輪枠にして線を引く。

【事例2】レンタサイクル「まちのり」

第35回(平成24年度)
金沢都市文化賞
[審査委員会特別賞]

金沢市立図書館の駐輪場が、自転車の駐輪枠を設け、駐輪場を整然とすこしに、広い面積で駐輪できる環境をつくり、整然としている。
（写真）http://www.city.kanazawa.lg.jp/kankin/kanseisai/kanseisai.html

もじ、駐輪場に線が引いてあつたら、
自分なら、どこに駐輪するんだろうか。

① 柵の中
② 線
③ 柵の外
千里の道も一歩から

提案 かなざわ版景観計画型駐輪場コンセプト

例えば、海、あるいは図書館の場合

① サイクルラックなどは設置はしない、輪を置いて台に栓づける。
② 利用者の多い日のため施して施設のない場所に自転車をいく。
③ 供用後、様子み、整理要否、改修対策。

費用対効果を考慮した駐輪場の実現
費用が整然と駐輪されている景観都市「かなざわ」



第6回 金沢の景観を考える市民会議

日 時：平成31（2019）年2月23日（土）
会 場：金沢歌劇座 2階大集会室

編集・発行／金沢市都市整備局景観政策課
〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号

写真提供／金沢市景観サポート
金沢市景観みまもりたい

